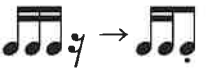


『ゆるる心』寸評

- ・規模の大きな内容を秘めた作品
- ・動きを作ろう、音を動かそう意識が先走ったかな
- ・各部の接続がややトートツ
- ・タイトルも内容としっくりこないようだ

完成度をさらに上げるために

- ・メロディのリズム型を固定・反復しているのが耳につく (m.1-8 VI.)
- ・特にm.7 はm.8 につなげようとタテもヨコもむりがかかっている
- ・まず16小節の構成ありき、ではなく美しいメロディ、流れが和声的にも、三重奏としてものびやかに展開して、辿りついた先が16小節になったときこえるようにしたい
- ・m.13-16 も4小節にまとめる意識が先に立ち、リズム型x3が楽曲にマンネリを感じさせてしまう
- ・休符や二重奏、独奏にすることも検討してみよう
- ・たとえばVI. のみのメロディ+伴奏と役割をキッチリ分けてあるなら全パート音符でうまっても納得がいく
- ・m.9 からの  このかたちの方が自然
- ・m.10, 12 b.1-2 付点四分音符で書こう
- ・m.4 b.1 VI. 装飾音は現代では16分音符2つにするのが主流

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

長く書くことにこだわらず、どの瞬間も美しい響きが
実現しているか、ていねいに吟味しよう。

持庵勉